

あいのその 2025 年 11 月号



「そこには、平和と繁栄との種がまかれるからである。すなわちぶどうの木は実を結び、地は産物を出し、天は露を与える。わたしはこの民の残れる者に、これをことごとく与える。」
(ゼカリヤ書 8 章 12 節)

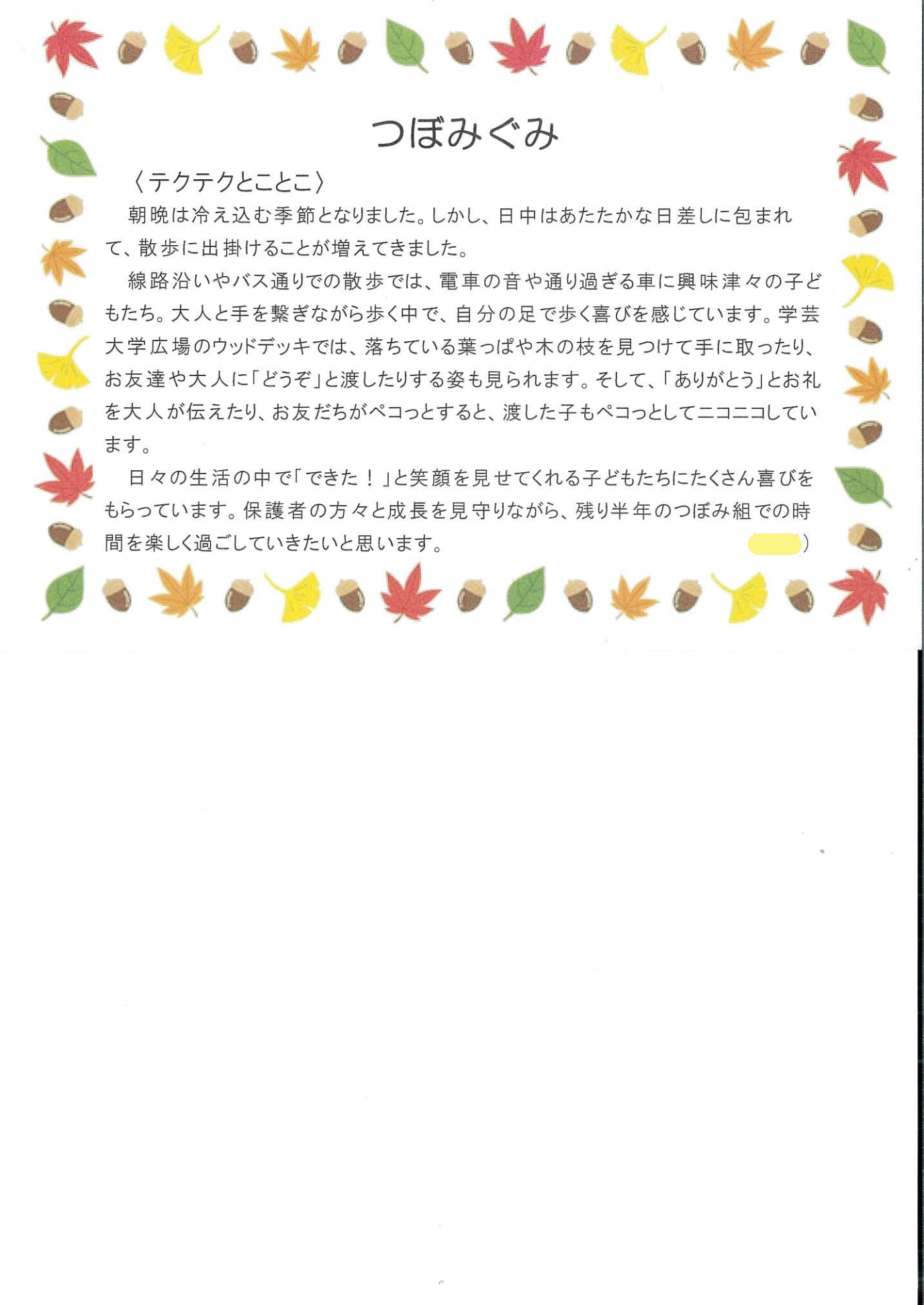
愛の園保育園 042-325-1045

旧約聖書・ゼカリヤ書は、苦しみの歴史を歩んできたユダヤの人々に対して、救い主が必ず来るという約束を多く語っている書物です。70 年ものあいだの外国における捕囚（奴隷）生活から解放されてようやくエルサレムに戻ったユダヤ人たちは、崩壊した神殿を再建しようとします。しかしそれは容易なことではありませんでした。ようやく帰ることのできた土地は荒れ果て、さらに様々な妨害や他国の介入、疑念の目を向けられ、国家として独立したり再建したりするどころか、その日その日を生きるだけで精一杯だったからです。人々は失望し、意気消沈していました。そんな人々に向けて、ここではぶどうの収穫をたとえとして、預言者ゼカリヤは語ります。

ぶどうは聖書に頻繁に登場する果実です。ぶどうはパレスチナ地方において、いたるところに栽培されていた植物だったからであり、人々にとって大変身近な食べものだったからです。また、「ぶどうの木」はユダヤの人々をたとえており、それを育てている主人は神を指しています。ぶどう畑の経営は非常に手間隙のかかる仕事であり、維持していくためには周到な準備と多大な労力を注ぐことが求められました。つまり、神がユダヤの人々を守り育てるためにどれだけの労力、犠牲を払ってくださったか、という意味を込めてこの比喩が用いられていたのです。ここでも「神によって平和の種はすでにここに蒔かれているのだ。その種は小さくて目には見えなくても、また成長がすぐに現れなくても、しかしやがて必ずそれは芽を出し、実を結び、あなたがたに収穫の喜びをもたらしてくれる。そのために必要な太陽の光も雨も、すべて神が用意してくださっている。だからそれを信じて生きなさい・・・」そのように人々に語りかけ、力づけたのです。

この季節、秋の実りのひとつとして私たちが口にすることも多いぶどう、それは歴史を超えて人間に注がれる神の愛の象徴でもあるのです。

(牧師 西脇 正之)



つぼみぐみ

〈テクテクとことこ〉

朝晩は冷え込む季節となりました。しかし、日中はあたたかな日差しに包まれて、散歩に出掛けることが増えてきました。

線路沿いやバス通りでの散歩では、電車の音や通り過ぎる車に興味津々の子どもたち。大人と手を繋ぎながら歩く中で、自分の足で歩く喜びを感じています。学芸大学広場のウッドデッキでは、落ちている葉っぱや木の枝を見つけて手に取ったり、お友達や大人に「どうぞ」と渡したりする姿も見られます。そして、「ありがとう」とお礼を大人が伝えたり、お友だちがぺこっとすると、渡した子もぺこっとしてニコニコしています。

日々の生活の中で「できた！」と笑顔を見せてくれる子どもたちにたくさん喜びをもらっています。保護者の方々と成長を見守りながら、残り半年のつぼみ組での時間を楽しく過ごしていきたいと思います。



たんぽぽぐみ <お友達のこと気になるな～>



秋も深まり、朝夕は少し肌寒さを感じる季節になってきました。子どもたちは散歩先で枯れ葉やドングリ、まつぼっくりを拾い秋の自然に触れています。最近ひよこグループはワゴンに乗らずみんなで歩いてみる日もでてきました。うさぎグループは学大農場や水車広場デビューをしました。行きも帰りも張りきって歩く子どもたち、その姿がとても頼もしく思えました。

たんぽぽぐみになって半年…それぞれが好きな遊びを見つけ楽しむ中で友達への興味も深まり、自分から「○○くん」と友だちの名前を呼んだり、やっている遊びに興味を示し、じ～と見た後真似してやってみたり、一緒に絵本を見て、「○○だね」「おいしそう～」と、可愛らしいやりとりをする姿が見られるようになりました。

また、今までは「僕が使っているよ!」と抱えていたおもちゃも、満足するまで遊ぶと自分から「どうぞ」と渡してみたり、取られそうになると手がでたり、おもちゃを抱え逃げていた子が「まってる～」と言って声をかけたり、同じおもちゃを持ってきてあげる姿もあります。相手の友達も嬉しそうに手を伸ばしたり、お礼をいうかのようにお辞儀をしています。表情やしぐさといった言葉以外の表現でも友達と盛んにやりとりをし楽しんでいます。

そして友達の姿に刺激を受け一緒にやってみようと遊びに参加する姿も増えてきたたんぽぽ組さん。♪手をつなごうという歌に合わせ先生や友達が輪になり遊んでいるところに「いれて」とやってきた子、近くまできたけど一歩出ずにいる子に「おいで」と誘ってみる子…楽しそうな雰囲気の中に一人、また一人と輪が広がっていく姿があります。これからも保育者が仲介しながら、友達と遊びを共有する喜びや楽しさを感じられるよう関わっていけたらと思います。



記)



ちゅうりっぷぐみ

<子どもたちの秋じかん>

色とりどりの落ち葉やさまざまな形のドングリなど、秋の自然は子どもたちにとってまるで宝の山です。すっかり朝夕は肌寒いですが、子どもたちは寒さを感じさせない元気な笑顔を見せてくれます。

天気の良い日には外に出て、友達と手を繋ぎ散歩に出発！JR 車庫に行くと、電車が動いたり止まったりする様子を目をキラキラさせながら見つめています。また学芸大学の敷地内にある農場ではみかんや棗（なつめ）など季節の植物や実りが沢山あり散歩を楽しんでいます。触れたりにおいを嗅いでみたりと五感を使って秋の自然をたっぷり味わう子どもたちです。

「どうしてここにみかんがいっぱいおちているの？」「なんでトンボがたくさんいるの？」と毎日のできごとから子どもたちの「どうして」がどんどん広がっています。「どうして？なんで？」といった探求心を大切にしながらこれからの季節も身近な自然の中でたくさんの発見を積み重ねていきたいと思います。

日々少しずつ色々な成長を見せてくれる子どもたち。体調に気をつけながら秋ならではの美しい景色や実りを子どもたちと一緒に感じていきたいです。



「ひかりぐみ」



「しょくじのじかんは・・・」

先月の給食の時間から子ども達は、それぞれが自分の食べる食事を自分で食器に配膳するようになりました。はじめは、おたまや、しゃもじを持つ手が少しぎこちなく、「どうやってやるの?」「こぼしそう...」ととまどっていた子もいましたが「これくらいならだいじょぶ!」、「もうちょっといれてみようかな」「いれすぎると、なくなっちゃうね」などと、量を考えながら慎重に盛り付けようとしています。

「あついからきをつけてね」「おしる、こぼさないようにゆっくりね」と友だちと声をかけ合う姿もあり、道具を使う手つきも少しずつ上手になってきました。こぼれてしまっても「だいじょぶ、ふくね」と助け合う姿も見られます。

配膳を終えると、「いただきます!」の声とともに、「じぶんでよそったの!」「おいしいね」と嬉しそうな表情の子どもたち。自分で準備したごはんだからこそ、よりおいしく感じるようです。子どもたちにとって食事の時間は、ただ食べるだけでなく、自分でできた喜びや友達と一緒に味わう楽しさを感じる大切なひとときになっています。

食育だより

収穫感謝祭



幼児クラスが11月21日に豚汁を作ります。豚汁には豚肉、白菜、大根、じゃが芋、人参が入っています。豊かな収穫の恵みを与えてくださった神様に感謝してたくさんの食物をいただきましょう。

『食事の配膳』

幼児クラスの子どもたちが10月14日から自分で食事の配膳をはじめました。自分で配膳することで自分の食べられる量を考えて盛り付けているので食事の残菜量が減ってきています。

また、たくさん食べてくれているように感じます。子どもたちの自分でできたという嬉しい気持ちを調理室でも感じています。



11月15日の七五三は、子どもの健やかな成長を祝う行事です。男の子は5歳（3歳で祝うことも）、女の子は3歳と7歳でお祝いします。昔は乳幼児の死亡率が高く、子どもの成長は現在以上に貴重で、喜ばしいことでした。

また、七五三に食べる千歳飴には、「千年長生きできますように」という願いが込められており、飴の色も縁起がよい紅白です。当日はお赤飯をたいたり、お祝いの食事会を開いたりして祝います。



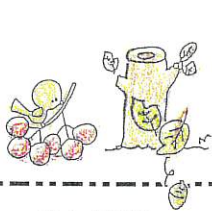
石焼きイモはなぜおいしい？

煮たり焼いたりしたサツマイモの甘みは、「βアミラーゼ」という酵素によって、でんぷんが麦芽糖に変化したものです。「石焼き」や「オープン」で調理することの利点は、ゆっくり加熱できること。長時間、50～75℃で加熱することによりよく酵素が働き、甘みが増すのです。



ちゅうりっぷ組とたんぼ組が
たまねぎの皮むきのお手伝いをして
くれて、大変助かっています。





寒さが増して、空気が乾燥してくる季節、インフルエンザ等の感染症が流行る時期です。手洗いやうがいをしっかり行って、予防するように心がけましょう。また予防の基本は、規則正しい生活、十分な睡眠とバランスの取れた栄養、体力づくりです。風邪に負けない元気な毎日を送りましょう。

冬のスキンケア

寒さの訪れとともに皮膚のトラブルが出てきます。

カサカサ乾燥肌で、かゆがって掻いてしまい、皮膚を傷つけてしまったという経験があることと思います。子どもの皮膚は薄く、乾燥しやすく刺激や摩擦に対する抵抗力も弱いので、とても傷つきやすいです。適切なスキンケア「洗ったら保湿する」をしていきましょう。

- 1 身体はいつも清潔にしておきましょう。
- 2 入浴時、ゴシゴシ洗うと表皮を傷つけるので、優しく洗ってあげましょう。
- 3 入浴後は、刺激の少ない保湿剤やクリームなどを使用し、薄く乾燥しやすい皮膚を守ってあげましょう。
- 4 下着を着用し、直接肌に触れる部分は木綿の衣類にしましょう。
- 5 毎日手入れをしても肌荒れが続く場合は、皮膚科を受診してみましょう。

下着の役割…下着はつよい み・かた！…

《 下着の3つの働き 》

- ①吸湿性 : 汗を吸い取って、身体が冷えるのを防ぎます。
- ②通気性 : 皮膚と下着の空気の状態を一定に保ち皮膚の体温調節が出来ます。
- ③保温性 : 下着と上着の間に暖かい空気の間層を作り4℃暖かくなるといわれます。

インフルエンザの予防

* インフルエンザの予防にはワクチンが有効！

インフルエンザワクチンは接種してから実際に効果を発揮するまでに1~4週間ほどかかります。子どもは、2回接種が必要で、2回目は1回目から1~4週間あけて接種します。小金井市内では既に流行が始まっています。11月中には接種が終えられると良いですね。

* 日常生活での予防方法

- ①栄養と休養を十分とる : 体力をつけ、抵抗力を高めることで感染しにくくします。
- ②人混みを避ける : 病原体のウィルスに近寄らない事が大切！
- ③適度な温度・湿度を保つ : ウィルスは低温・低湿を好むので、加湿して乾燥を避けましょう。
- ④マスクの着用 : のどや鼻の湿度を保ち、咳やくしゃみの飛沫から人への感染を防ぎます。
- ⑤手洗いとうがいの励行 : 手洗いは接触による感染を、うがいはのどの乾燥を防ぎます。

《 やけどに注意！ 》

予防は大人の細かい気配り…

- そして…子ども自身への注意
- * 暖房器具の近くではふざけない。
 - * アイロン・ポット・炊飯器・お茶・汁物等子どもの手の届く所に置かない。
 - * 火を使わない暖房器具も長時間近くにいると低温やけどをおこします。どんなやけどでも、まずは、すばやく流水で30分以上冷やす
 - * 水ぶくれが出来たり、ひどい時は冷やしながら病院へ急ぎましょう。

《 運動遊びは身体の成長に必要！ 》

近頃の子供達は日頃の外遊びが少なく、空間認知能力(活動場所の奥行きや人との距離感を認知する力)や安全能力が未熟で育っていかなくなりました。そのため人とぶつかったり、保護動作が取れずに顔面から転んでしまうことが多くなっています。

11月の保健行事予定

- * 内科健診 … 11月14日(金)
全クラス(0~5才) 9:00~
早めに登園しましょう！
- * 歯科検診 … 11月13日(木)
幼児クラス(3~5才) 9:00~
* 歯磨きを忘れずにして来てね！
* 早めに登園しましょう！
- * 手洗い指導 … 幼児クラス
11月4日(火)・6日(木)・10日(月)

10月の感染症

溶連菌感染症	……	2名
インフルエンザ	……	4名
コロナウイルス	……	2名
ヘルパンギーナ・手足口	…	2名